

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

病害虫防除情報第1号

施設野菜の病害虫対策についてとりまとめましたのでお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

次期作付のための病害虫対策として、栽培終了時の 蒸し込みと残渣処理を徹底しましょう。

- 1 作物名 施設野菜（ピーマン、キュウリ、トマト）
- 2 病害虫名 アザミウマ類、コナジラミ類、青枯病
- 3 発生状況（経過）
 - 1）4月の巡回調査における、促成キュウリのミナミキイロアザミウマの発生面積率は44.4%（3月 33.3%）、葉当たり虫数は2.6頭（3月 2.4頭）で、いずれも増加している。冬春ピーマンについても、発生面積率が66.7%（平成19年39.0%）、10花当虫数が3.5頭（平成19年1.4頭）で、いずれも平成19年より多となっている。
 - 2）同4月のトマトのタバココナジラミ類の発生面積率は50.0%（平成19年 9.8%）で平成19年より多、百葉虫数は3.7頭（平成19年1.7頭）で平成19年よりやや多となっている。
 - 3）トマトの青枯病については、平成19年11月に発生面積率が14.2%（前作 8.3%、前々作 0.0%）と発生が多く、菌密度も例年に比べて高いと思われる。
- 4 防除上の注意
 - 1）アザミウマ類、コナジラミ類
栽培終了時には、施設を密閉し蒸し込みによる害虫類死滅を図り、拡散防止を徹底する。蒸し込みは、栽培植物及び雑草を掘り上げ（根上げ）後すぐに密閉し、密閉期間は内部の植物が枯死してから1週間～10日を確保することが望ましい。
ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。（ハウス内の雑草や枯れていない残渣は害虫の生き残り場所となりやすいので注意が必要である。）
次期作付に当たっては、育苗期から防除（粒剤施用等含む）を徹底し、本ほハウスには防虫ネットを必ず設置し、害虫の持ち込みを防止する。
 - 2）青枯病
本病の対策としては、作物残渣を施設外に持ち出し、適切に処分するとともに、施設内で使用した資材・農機具等についても消毒を行うなど、徹底して菌密度を減らすことが重要である。
また、改良陽熱消毒等の土壌消毒を徹底するとともに、秋口の高温により発病が助長されることから、極端な早植えは避ける。
 - 3）その他詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各支庁・農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会する。

《連絡先》病害虫防除・肥料検査センター 米良
TEL：0985-73-6670 Fax：0985-73-7499
ホームページ：http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp